

令和5年度

第1回

関東森林管理局国有林材供給調整検討委員会

日 時：令和5年7月5日（水）

13：15～15：15（予定）

場 所：関東森林管理局 東京事務所 会議室

次 第

1 開 会

2 議 事

（1）木材の需給動向について

（2）国有林材の供給調整について

（3）その他

3 閉 会

令和5年度 第1回 関東森林管理局国有林材供給調整検討委員会 出席者名簿

○委員

(五十音順・敬称略)

所 属 ・ 役 職 名	氏 名	出 欠
株式会社フジイチ 代表取締役社長	石野 秀一	出席
福島県森林組合連合会 参事	遠藤 誠寿	出席
栃木県 県東環境森林事務所 所長	川上 晴代	出席
国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 林業経営・政策研究領域 領域長	久保山 裕史	出席
協和木材株式会社 代表取締役社長	佐川 広興	出席
東京合板工業組合 業務統括室長	佐々木 祐子	出席
茨城県森林組合連合会 代表理事専務	佐藤 信聡	出席 (web)
栃木県森林組合連合会 代表理事専務	佐橋 正美	出席
群馬県森林組合連合会 木材部長	鈴木 克志	出席
株式会社堀江林業 代表取締役	堀江 賢一	出席

○関東森林管理局

官 職	氏 名	出 欠
森林整備部長	川浪 亜紀子	出席
資源活用課長	梶井 昌克	出席
東京事務所 副所長	堀江 則之	出席
企画官(木材需給対策)	飯村 善美	出席
上席技術指導官(木材供給担当)	奥村 忠充	出席
供給計画係長	井上 祥吾	出席
素材供給係	神保 宏樹	出席

(別紙)

令和5年度 第1回 関東森林管理局国有林材供給調整検討委員会 議事概要

1 開催日時・場所

令和5年7月5日(水) 13:15~15:15

関東森林管理局 東京事務所会議室(WEB会議併用)

2 議題

(1) 木材の需給動向について

(2) 国有林材の供給調整について

3 検討結果

国産材製品の荷動きは悪く、製材・合板工場では減産や原木の受け入れ制限が継続している。

原木については、工場の減産の継続に加え虫害時期となり、荷動きは鈍化し、価格も低下している。

今後については物価高による住宅着工への影響が懸念され、需要・価格動向は不透明である。一方で、輸入材の在庫調整が進み、製品市況に下げ止まりの雰囲気が出てきたこと、合板において流通在庫が不足していることから、今後の荷動きの回復、価格修正を期待する意見も出ている。

このような中、国有林では、虫害時期であることも考慮し、原木の過剰な供給を抑えるため、生産事業において間伐の実施を優先して主伐の実施時期をできるだけ遅らせる取組を行っているほか、各地域の需給に応じて、販売方法をシステム販売と委託販売等で柔軟に調整していく旨の報告があった。

以上のことから、現時点では国有林材の供給調整を行う必要はないと判断する。国有林においては、当面の間、現在の取組を継続するとともに、引き続き、関係業界等からの情報収集を行い情勢を注視して、供給調整が必要となった場合には、地域の実情に即して機動的に対応策が打てるよう、検討をお願いする。

4 主な情報、意見

○ 原木の荷動きは悪いが販売量は変わらない。先般の豪雨災で幹線道路が不通となりトラック輸送が停滞して山からの出材が減少しているため、原木市場には在庫がない状況。製品の荷動きは非常に悪く、販売量も減少し、在庫が増加している。製材工場の減産によって地域のチップ工場が原料不足で操業できないほど全体が冷え込んでいる。価格について、原木は引き合いがない中、虫害等もあって非常に安くなっている。製品は、協定による取引ではそれほどでもないが、市場では驚くほどの安値が出ていて雰囲気を悪くしている。非住宅は変わらず仕事が出ており光明と感じている。外材の在庫は消化されてきているが、住宅着工の落ち込みもあるので秋に材価が上がるのか心配している。

○ 今年度に入り、原木の荷動きは非常に悪くなっており、特に中目材の3.65m、4mや大径材はほとんど入札がない状況。原木市場では在庫量が増加し、買い方が購入材を引き取らず市場が土場がわりになっていることもあって、市場としての作業効率が悪化している。原木価格は市毎に下げておりウッドショック以前の水準に戻るのではないかと。合板、大型製材工場等の生産調整は今後も続くものと思われ、荷動きと価格が低迷する中で先の見通しが立てられずにいる。

○ 原木入荷は順調だが、梅雨時期に入り天候に左右されている。原木価格は下落し、特にスギ

3m 柱取りが急落している。製材品の荷動きも悪く価格も低下している。持ち家着工の不振、資材価格・電気料金の値上がり等から先行きは不透明。しかしながら、材価の高低により伐る、伐らない、といったことを続けていると、結局、価格も量も安定しない。国産材シェアの維持には、安定供給体制の構築が重要であり、そのためには非住宅分野における需要拡大が必要ではないか。また、花粉症対策としてスギ人工林の伐採の増加目標が示されたが、労働力の確保とスギ需要の増加が課題と考える。

- ウッドショック時に注文した高性能林業機械がここにきて納入され、材価が下がっても原木生産量は落ちず、常に過剰感がある。製材品は、柱の価格が低下し、間柱、垂木、8 フィートの 2×4 材、土台は、柱より高い価格で取引されている。輸入材は、旧盆明けには在庫調整が終了する見込みで、その後は価格修正されるのではないか。原木価格はウッドショック前の水準に戻ってしまった。市場の競り値が基準になっているため、変動が大きいスポット価格が独り歩きして相場になってしまう。素材生産、流通、製材業、バイオマス発電等の間で需給情報の共有、連携強化が必要。また、輸入材は3ヶ月ごとの契約で価格と供給量を確定させている。国産材の取引も同じようにできれば価格の乱高下は防げるのではないか。業界人が努力する必要があると考えている。
- 合板メーカーは1割から2割の減産を続けており、生産量に合わせた原木の入荷制限が続いている。製品価格は、生産調整を行っているため大きく下落はしていないが、じりじりと下げている状況。住宅着工が回復しなければ厳しい状況が続くと考えられるが、非住宅関連は活発になってきている模様。輸入合板は在庫がなくなり始めており、国産材合板への引き合いが徐々に増えてきているのではないか。
- 共販所への原木の入荷はほぼ平年並み。虫害が多いこともあり落札率は7割程度。スギ柱材を扱う大手製材所からの買い付けが非常に少なくなっており、販売額、量ともに去年同期を大きく下回っている。価格について、スギ柱材が大きく下落し、ヒノキも値を下げており、ウッドショック以前の平均価格よりも安い状況。製材業者の原木購入意欲が低下しており、しばらくはこの傾向が続くのではないか。住宅着工の減、物価高等、先が見通せない状況だが、外材について、東京港の在庫の減少やアメリカの住宅需要増加・北米の山林火災により供給がタイトになるといった話も聞いており情勢を注目している。
- 4月以降、共販所での原木取扱量は減少しているが、落札率は何とか100%を維持している。価格の下落は大きく、5月の平均価格は前年同月比で78%である。安いという雰囲気は価格に悪い方向性を与えているのではないか。梅雨期に入り原木の入荷は減少傾向を示しているが、季節的なものか価格によるものかは、実態がつかめていない。山側の協調減産は簡単にはいかず、原木の供給量は一度下げると元に戻すのは非常に難しい。ウッドショックで国産材に向けられた目が外材、他資材に戻らないよう、山側はコスト縮減等できる限りのことをやって、木材が不足することのないよう安定供給に努めていきたい。
- 原木の荷動きは悪く、特にスギ柱材は無入札もあり原木市場では在庫がかなりある状況。共販価格はスギ柱材、スギ中目材が大きく下げている。直送分はそれより高値で取引できているが、徐々に下げとなっている。市場在庫が豊富なため無理に入札に参加する必要がなく、虫害時期でもあり買い手の購入意欲は乏しい。カラマツの合板用の受け入れは少しいであるが再開されている。森林・林業基本計画の目標達成に向け、これまで増産という形をとっていたが、伐っても買い手が少なく、売っても価格が安いことから、伐り捨て間伐等への振替えや伐採時期の先送りをでき

るだけ行っている。なお、国有林の生産事業発注の端境期に、国有林の立木販売の材が結構な量、出材されるようである。この時期の材は傷みやすく、下手をするとバイオマス材になってしまうので、何か調整ができると良いと感じている。

- 6月に入って原木の流通は減少している。素材生産業者が国有林の発注事業に入り始めたことや、虫害と安値等も影響していると思われる。原木の価格は、ここ1年間で7~8千円低下したが、協定による取引に関しては、協定先の頑張りでそこまでではない。今後について、この価格では市場に出荷する者がいなくなってしまうのではないかと。北米材の入りが悪くなるとの話もあり、9月以降、持ち直すことを期待している。
- 製材用素材の在庫が高水準を保っており気にしている。合板用素材の在庫は大分減ってきていることから、この先、情勢が変わってくるのではないかと。価格については、物価上昇の影響を考慮すると、概ねコロナ前の水準に戻ってしまったようであり、これ以上下がると問題である。今後の見通しについて、住宅着工が低調な状況から楽観はできない。非住宅も含め需要を拡大していく必要。中央需給情報連絡協議会で、横架材としてヒノキ・スギハイブリッドの集成材が使えるのではないかと話があった。
- 素材の在庫量や立木の不落物件の量といった、国有林の手持ちの在庫がこれぐらいあるという数字が常時見られると先行きの価格変動を抑えられるのではないかと。